

促成(2~4月収穫)スイカの台木

農業研究センター 農産園芸研究所 野菜栽培・特産部

研究のねらい

スイカの接ぎ木栽培は、つる割病の回避のほか、低温伸長性の活用を主として行われてきたが、最近、着果安定や果実品質の安定をも含めたところでの台木選定が求められる傾向にある。そこで、ユウガオ、トウガン及びカボチャのそれぞれの台木品種について、9月~12月播種での特性を調べた。

研究の成果

1. ユウガオ台木は、一般に低温伸長性及びスイカつる割病耐病性があるが、その中でも、「かちどき」が雌花着生数も多く、着果が安定する。また、糖度、果実肥大ともに優れる。ただし、草勢が強くなり過ぎると着果が不安定となり、果実品質も低下する場合があるので注意する。
2. トウガン台木は、着果が安定し、果実品質、食味が良いので、品質を重視する場合に用いる。特に、「ベスト」は雌花着生が安定する他、糖度が高く、果実の揃いが安定する。しかし、低温伸長性が劣るので、温度確保に留意する。また、つる割病抵抗性はやや劣るので、スイカつる割病激発地での栽培は避ける。
3. カボチャ台木は、ユウガオ及びスイカつる割病抵抗性を有し、ユウガオ台木が使用できない場合に用いられるが、草勢が強く、雌花着生が不安定になりやすく、食味が低下しやすい欠点がある。しかし、「べんけい」は草勢が中庸で着果が安定し、果実肥大も良好であり、低温期の栽培に適応する。
4. カボチャ台木の注意点としては草勢を強くすると、果肉繊維が多く、食味がユウガオやトウガンに対して劣るので、草勢が強くないような管理が必要である。また、スイカ品種によっては不親和性を示す場合があるので注意する。

表1 台木の一般的特性

台木	ユウガオ	カボチャ	トウガン
接ぎ木親和性 初期生育 スイカ果実品質 耐乾性 耐湿性			

図1 糖度結果（供試品種：朝ひかり）

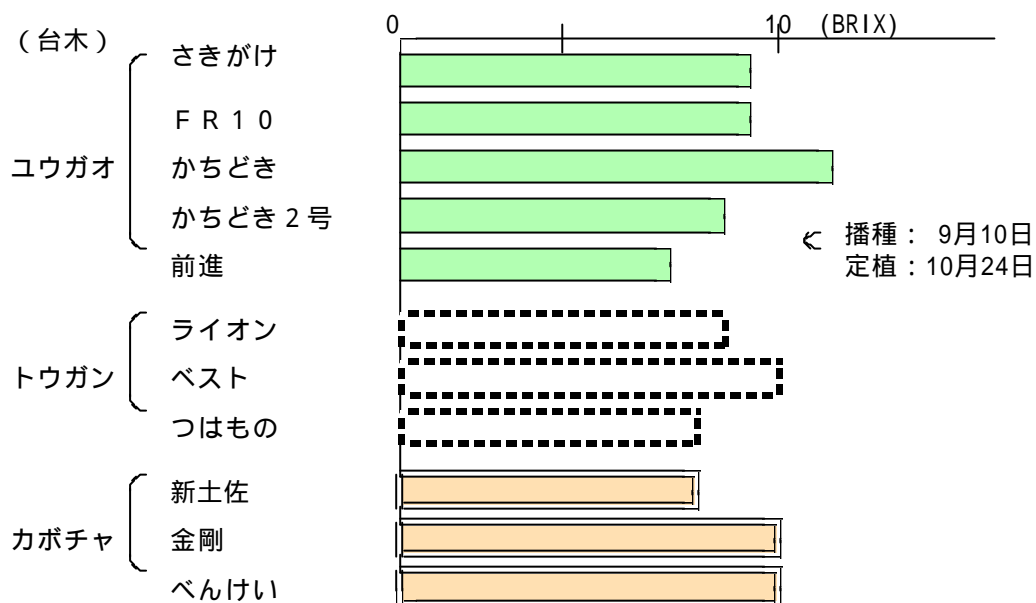


表2 1果平均重（供試品種：朝ひかり）

